

歴史ある チャーミングな街で過ごす 陽気な週末

パースが“シテイ”なら、ここフリーマントルは“タウン”。
歴史的な建物が残る青空博物館のような港町は
ほっとひと息いれるコーヒーブレイクのような街だ。



Fremantle

フリーマントル

パースからひと足伸ばせば そこはおもちゃ箱のような街。

パースの西わずか20kmに位置するフリーマントルは、インド洋に面した明るい港町。パースから電車で約30分、というアクセスの良さもあり、一度は足を伸ばしたい人気のエリアだ。

この街の歴史は1829年にさかのぼる。英国のキャプテン、ジェームス・フリーマントルにより植民地宣言がなされたのが始まりで、その後開拓者たちの手によって発展していった。この街を一躍有名にしたのは、1986年に行われたヨットレースの最高峰アメリカズ・カップ。これをきっかけに、この街は19世紀のムードを残しながらも明るい観光スポットへと進化していった。

化粧直しをしたとはいえず、当時の建物は今もそのまま残されている。町の中心に建つ白いタウンホールは1887年の建造。海沿いの高台に建つラウンド・ハウスは、植民地最古の刑務所で、また街一番の人気リゾート、エスプラネードホテルもコロンナアル様式のレトロな建物が目印となっている。こうした建物を含め、街全体を観光するのなら、観光トラムかCATがお勧め。徒歩でのんびりそぞろ歩くのも、レンタルバイクでひと走りするのも悪くない。



海沿いのエリアでは、ハーバーに建つラウンド・ハウスからインド洋の絶景を眺めよう。反対側にはフリーマントルの街並みも見える。すぐ近くでは、海の歴史がよく分かる海洋博物館が見どころ。周辺には新鮮なシーフードレストランも多いので、名物のフィッシュ&チップスをぜひ食べたい。

この街でもっともにぎわいを見せるのは、なんといっても目抜き通りのサウス・テラス、通称カプチーノ通りだ。道の両脇にはカラフルなパズルが並び、カフェやレストラン、パブが軒を連ねており、週末にはナイト・クラブもにぎわう。なんだかヨーロッパにでも来ているような気分になるが、それもそのはず、ここにはかつてイタリア人の漁師たちが多かったため、今でもイタリアンやシーフードの店が多く、カフェ文化が発展したのだ。

このカプチーノ通りとヘンダーソン・ストリートの角に位置するレンガ造りのレトロな建物が、有名なフリーマントル・マーケット。金・土・日曜の週末と祝日に開くマーケットとして1897年からの歴史があり、地元の人々ににぎわう様子は今も昔も変わらない。

内部はまるでモザイクのようにあらゆる店がひしめき合っている。新鮮な野菜やフルーツ、チーズ、惣菜、ワイン、ジャムなどの食品、ハンドメイドの雑貨やアクセサリー、アロマグッズ、Tシャツ、シーブスキンのみやげ物などが並び、どこを歩いても目移りするほど。店の人とのコミュニケーションも楽しみのひとつだ。

